夕刊
磐城新聞
五月二十日發行
定價 一ヶ月 金六拾五錢（郵費金拾五錢） 廣告料 普通一行 金六拾錢 特別一行 金九拾錢 五號十二字詰一行（場所指定一行金壹圓） 編輯印刷兼發行人 柏木衛 福島縣石城郡平町田町十六番地 發行所 磐城新聞合資會社 送金受領電略（タイライワキ） 平局私書函第十二號 電話五六番
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八・五五六五番

天氣豫報
小名濱測候所發表
今晩は北西の風晴一時曇
明日は北西の風晴一時曇

健康兒調査に當りて（二）

平第二小學校長 千葉右近

本校健康優良兒選定の體格調査の標準並に各項目配點左の如し

1 比体重＝身長を以て体重を除したる百分率にして この配點四十點
2 比胸圍＝身長を以て胸圍を除したる百分率にして この配點二十點
3 握 力＝測定器により實施せるものにし、各右手測定、この配點二十點
4 肺活量＝呼氣，吸氣の量と肺伸縮の强さを測定するものにして器械を使用しこの配點二十點

以上の項目合計にて一〇〇點滿點としたるものにしてその標準率及調査の結果本校の成績左の如し

一、体格成績測定の標準（全國の平均）

	比体重	比胸圍
尋一	一六、二	四九、一
二	一七、〇	四八、六
三	一八、〇	四九、六
四	一九、一	四七、八
五	二〇、四	四七、六
六	二一、九	四七、六
高一	二四、〇	四七、八
二	二六、三	四八、六
	（四十點）	（二十點）

	握力	肺活量
尋一	一四	一二〇〇
二	一六	一三五〇
三	一九	一五五〇
四	二三	一六五〇
五	二三	一七〇〇
六	二七	一九〇〇
高一	三〇	二〇五〇
二	三五	二三〇〇
	（二十點）	（二十點）

二、本校健康兒の成績

學年	比体重	比胸圍	肺活量	握力平均
尋一	四七、九	一八、二	一二二四	三
二	四六、六	一八、六	一二五四	一三
三	四六、四	二〇、七	一四六〇	一五
四	四九、三	二一、一	一四八七	一八
五	四七、五	二三、一	一七七八	二二
六	四七、八	二六、七	二三一八	二九
高一	四八、七	二七、三	二三九四	三〇
二	四八、八	二九、八	二三六二	二九

卽ち全國の平均に比し尋四以下の兒童にありては肺活量に於て劣り逆に尋五以上は優る。又握力は全國平均に比し一般に低く之を要するに低學年の課外運動の不足又は都市兒童としての生活が然らしめた一因と見ることが出來るのである。

體力に於ては走、跳、投の三種目につきて測定せるものにしてその合計は一〇〇點を滿點とし走投（四十點）跳技（三十點）投技（三十點）配點せるものである

體力テスト標準（略）

以上の測定に徴するに本校に於ける健康兒に於ては其の体力中走技、跳技は頗る好成績を示す。これ卽ち本校從來の課外運動と兒童自身にとりても最も安易にして興味深き運動たる結果斯る好結果を示せるものといふべく一面選手制的の運動の指導にとかくの非難はあるも一般の体位向上と精神の修養とには必要なるものゝ如く思はるゝのであるが然るに投技に於ては頗る思はしからざる成績なり。尤も高學年に於ては課外練習の結果例外と見るべきものはあるも女子の生活環境と都市兒童としての事情から斯る結果をもたらせるものと思ふべく今後我々直接これに關係ある者の運動指導上熟考すべき問題ではなかろうか。

その日／＼

○

この部屋のしづもりみたるものもなく床の牡丹のほしいまゝに紅き 木下利玄

一成

琢雲 小野務平

不撓[illegible]便作功
由來[illegible]乘總皆同
當年幾度甘嘲笑
今日初看宿志通

5月21日

△白詩人ヴェルハーレン生（一、八五五）△リンドバーグ大西洋横斷（一、九二七）△昭和會解黨△露探檢飛行家シュミット博士一行北極を征服（昭和一一）

平局俳黎會（四月句會）

水明

○行春や猿の衣のいぎたなく
○山吹に堰の逃水しぶきけり
○山吹に湖騷の波たゝみ來る
○春雨や韮の若芽のつやゝかに
○菖蒲湯に丈くらべゐる父子かな

閑談夜話（六）

平 華生

○ペンネームのいろ／＼

すると紅葉先生いろ／＼テストをした上で『仲々確りした御舍弟じや末の見込もありそうだ、雅號なんかそう難しく考へない方がいゝな、君の舍弟なんだから斜汀としたらいゝじやないか』とアッサリ云はれたが、それも面白いとその儘付けさせたのが今日に及んで居るんだ［illegible］。

『谷崎零一』これは最近風變りな結婚の主として、新聞の社會面を賑はした長谷川伸氏の愛娘の聟さんだ、零一君のお父さんは明治の末期から大正にかけて吾が小説界を風靡した彼の有名な谷崎潤一郎氏である。瓢逸洒落な人だけに子供の名前の付け方も振つて居る『零一』と云ふ奇妙な名前の由縁は同君が潤一郎氏の寵兒として呱々の聲をあげたのが×年×月×日の午前零時一分だ。其處で名前・立ち所に『零一』と付けて祝杯をあげたんだそうだ。

講談 隱密小天狗（おんみつこてんぐ）

(25) 中川雨之氏作 近藤紫雲氏畫

戀か？

『俺はまだ、戀をしたことは無いが、小夜美を想ふ今夜のこの心、これが戀といふのだらうか。しかし俺は色の戀のと女を相手に騷いでゐる時でないのだ――』

伊豆守の顏が、幻影となつて現はれて『隱で、ちつと睨んでゐる――俊作は。

取り上げた盃を、口へ持つて行くことも忘れてぼんやり考へた。腋の下が、冷たく汗ばんでゐた。

『戸田氏、何を茫乎して居られる、早く乾して、その盃、こつちへ頂戴しよう』

さつきから、飲み詰だがまだほんとに醉つて居ない强酒の忠彌であつた。

俊作は、周章て、盃を乾して忠彌に献した。彼は。忠彌といふ男にも、內心ちよつと敬服させられたのである。物事にこだはらないあつさりとした、實に男らしい男だ、と思つたのであつた。

まつたく忠彌は、たつた今、互に劍を拔いて渡り合つた相手だ、といふことなんか、けろりと忘れ、さながら十年の知己といつた親しみをもつて俊作に對し打解けて來るのであつた。しかし、忠彌の心の底には。どうかして俊作を一味に引入れたい希望を秘めてゐた。

俊作は俊作で、敬服はしても決した油斷はしない。忠彌を隱密の踏臺にしようとする野心は、胸の裡に燃えてゐた。

『拙者はそろ／＼お暇としよう。あまり長居をすると小夜美に怨まれるだらう。人の戀路の邪魔する奴は、馬に蹴られて死ねば宜いと申すからの、はゝゝゝゝ』

やがて、忠彌は、よろ／＼と立ち上つた。

『まあ憎らしい丸橋さま―』

小夜美は睨む眞似をした。俊作は、このまゝ忠彌を歸してしまふのは、何となく心殘りだつた。

『お歸りなら、その邊までお見送りしよう。おまへも來い』

彼は、小夜美を連れて、忠彌に平公に四人ぞろ／＼と津の國屋を出た。

もう九刻にも近く、雉子町の夜の賑ひ疲れた眞夜中の、溜息みたいな靜かさが何處からともなく忍び寄つてゐた。

四人は、夜の路上をわが物顏にきやつ／＼と笑ひ戯れながら歩いてゐる。

しゆん作は、小夜美の肩に手を絡ませて、よろけながら、歩いてゐた。心ある者が見たら、定めて眉をひそめ、苦々しく思ふであらう醉態であつた。

『じゆん作さん』

突然、名を呼ばれて、當のしゆん作をはじめ、三人も驚いた。

けい之助が目を怒らせて二人の前に突立つてゐたのだ。

小夜美は、びつくりして肩にかゝつてゐる俊作の手を放さうとした。が、何んと思つたか俊作は、さうはさせなかつた。反つて、ますます强く、小夜美の體を引き寄せるやうにした。

『この姿態は、全體何といふことです！』

しゆん作の前に立ち塞がつてけい之助は怒りに燃ゆる眼を、しゆん作の面から、順次三人の顏に移して行くのだつた。

『あなたは、誰でしたか？』

としゆん作は、とろんとした醉眼で、不思議な物でも見るやうに、けい之助を透かし視た。

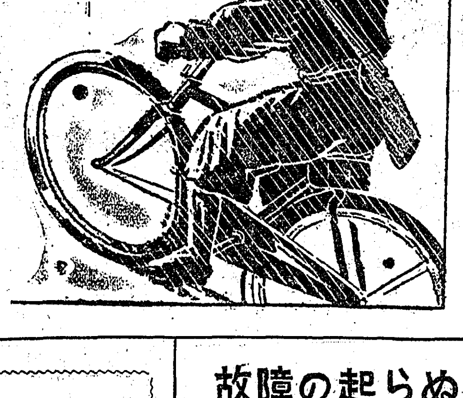
『拙者はけい之助です。それが分りませぬか』

と、けい之助は、顏を突き出した。

店員を迎ふ
一、小店員（十六歳以上）
一、中店員（廿歳前後）
各二名を迎へます
仕着小遣持 追々昇給
休日毎月二回――第一第三日曜（委細照會又は本社へ）
東京市大森區馬込町二丁目一、〇二五
京染 白生地、呉服 蓮沼亘商店
電話大森六二七四番
（二十五歳より獨立又は經營保證）

恐るべき中風、腦溢血を速治せしむる
アイヨー錠
血壓を下げ、血管若返り、中風を全治し、早老及老衰を豫防す。
中風の原因は血管の硬化にあり血管硬化すれば血壓高まり精神的並に肉体的に退行現象を生じ所謂老年病を誘發し或は中風腦溢血を突發す。
アイヨー錠の應用は血管に若返り現象を與へ老衰の進行を緩徐ならしめ初老及中老期に隨伴する總ての不快症を除去し中風を豫防す。
動脈硬化症、高血壓症、初老期に於ける体力及精力減退、中風、腦溢血の豫防に常用すべき貴重藥
百四十四錠（八日分）貳圓 四百八十六錠（廿七日分）六圓
千八百錠（百日分）貳拾圓
專賣店 山野邊藥局 平市五丁目（電呼六六八）

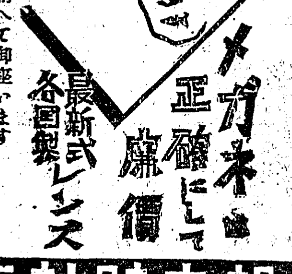
ガソリン不要
吾に 鐵脚あり 鋼鐵車あり
力強く只一言 絕對優良
特殊鋼鐵製
帝國號自轉車
神風號自轉車
機關銃印自轉車
フタバ式各種重量リヤカー
フタバ商會
新川町郵便局前



◎通勤女店員募集
一、高等小學卒業程度
一、市內居住の方
一、年齡十八歳……二十二歳迄の方
一、確實なる保證人を要す
御希望の方は履歷書持參ありたし、細詳面談
平マーケット
平市田町（電話七〇番）

平市二丁目
あまと自動車商會
電話六四〇番

醫學士 吉田久雄
吉田眼科醫院
平市紺屋町 電話六八番



眼鏡
メガネは正確にして廉價
最新式レンズ各國製
當舖に取揃へて御座います
（亂視用眼鏡即時調製）
根本時計店
平市二丁目 電話七六

お節句飾りの！
値下げさ 正札賣に付 謹告
端午の節句が近づきました。皇軍大捷國運旭日の勢を示す此の時、お子樣の將來に幸を祈る尙武節句を盛大に行はれる事は誠に意義深い事と存じます。
銃後の護りは健康兒、兒童愛護の精神から…私達同業者相計り五月節句品の奉仕的大値下を斷行いたしました。尙時代に相應じ絕對懸引のない正札賣に改め御客樣の安心して御買上願へる樣にいたしました。
御用命は正札賣りの聯盟店へ仰付下けさる樣御願ひ申上げます。
平市節句飾販賣業聯盟（イロハ順）
平市三丁目 叶星加藤商店
平市四丁目 鱗與支店
平市二丁目 フクタヤ祝品部
平市三丁目 金太郎玩具店
平市四丁目 菅野屋肥料店
平市四丁目 スガノヤ提灯店

故障の起らぬ
原口のラヂオ
ラヂオは 明音・明聽
ラヂオは是非――
專門店……へ
原口無線電機株式會社代理店
古山電氣商會
平市二丁目（警察署通り）
電話（呼出）166

開業
內科、小兒科
鈴木醫院
平市鍛冶町八番地（吉田屋呉服店西隣）
電話（呼）一、一〇

レストラン
サロン
食事 喫茶 酒場を兼ねた
平田町 電三二五三

應召の町村會議員 解除の場合返り咲く

新法令と地方への響き

道府縣、市町村會議員の地方議員が應召と同時に公權を失ひ晴れて凱旋後も復權し得ないと云ふ資格喪失問題は地方に於ても赤井村會議員福田福一氏の應召直後に於ける時局柄些か首肯し難い補欠選擧の實例など今次事變に絡んで現行地方制度の生んだ缺陷としてこれが是正を要望されて居たが內務省では研究の結果凱旋將兵の選擧權復活は勿論應召により議員を失格したものに對しても凱旋と同時に復活出來るやう現行制度を改正することに決定しいよ／＼十八日付官報をもつて『支那事變により召集中の者の選擧權及び被選擧權に關する法律』を公布し即日實施することになつたので不合理な該問題は茲に完全に解決されたが、之によつて見ると

北海道法、府縣制、市制町村制又ハ之等ニ基キテ發スル勅令ニヨリ設置スル議會ノ議員ニシテ支那事變ニ際シ召集中ナルニ因リ其ノ職ヲ失ヒタル者召應ヲ解除セラレタルトキハ其ノ職ニ復ス

とあり更に

前項ノ場合ニ於テ議員ノ數其ノ定數ヲ超ユルトキハ議員の任期間其ノ議員ノ數ヲ以テ議員ノ定數トス

とあるので前記赤井村の如き場合には福田氏が將來召集を解除された時に再び同村會議員に返り咲くは勿論、同氏の應召に因り思はぬ幸運を抽き當てた補欠の繰り上げ當選者も今期丈けは依然議席から離れずに濟むわけである

悲歎の養蠶家に 溫い救ひの手

廿四日免租申請等協議

去る十四日夜縣下を襲つた晩霜の打撃により本郡三阪、澤渡、永戸、川前山間方部の桑葉は既報の如く約三百町步が全滅と云ふ慘狀を呈し春蠶中止の已むなきに至つた外上下小川、上入遠野田人、川部等も二割乃至四割程度の被害を蒙つた、さらでだに糸價の安價懸念に今春蠶の前途を悲觀してゐた養蠶家の落膽は大きい、よつて關係村では直にこれら養蠶家の救濟に乘り出し來る二十四日平市會議事堂に石城町村長友會評議員會を招集

前記關係町村長に平稅務署長、郡農會長、平稅務出張所長等の出席を求めて具さに慘狀を説明の上免租並に補助の申請の手續き其他に關して種々協議することゝなつた悲歎のドン底にぶちのめされた地方養蠶家もこれで大いに救はれることになるであらう

赤井駐在所上棟式

赤井駐在所は地元有志の寄附により工費千五百圓で新築すべく昨十九日上棟式を擧行した、新裝の成るのは來月中旬頃である、寄附者の主なるもの左の如く地元消防組の勞力奉仕も感謝されてゐる

（三百圓）日曹會社、日本窯業、品川礦業所（百圓）赤井村、佐藤三平、川瀬孝治、不動炭礦、第一施業森林組合

郷土部隊萬歲

徐州陷落 市長さんから感謝電報

けふ旗行列の波

『徐州の一角占領』『兩角部隊一番乘り』胸のすくやうなこのニュースがきのふ一と度傳はるや市內のこゝかしこから起る祝捷の爆發『流石は偉いぞ』とみんなわれらが部隊の殊勳を禮讃して、銃後陣容强化の覺悟は一層深められた。市當局では取り敢ず青沼市長の名で

『徐州會戰の偉勳を祝し閣下並に將士各位の御勞苦を謹謝す』

との感謝電報を打ち更に今日二十日は午後三時から中小學校生より成る旗行列に全市は明朗な戰捷氣分に包まれた

兩英靈公葬

廿四日玉川と湯本で

去る一月十六日江蘇省楊巷子に於て壯烈な戰死を遂げた玉川村出身歩兵伍長上遠野繁一君及び昨年十月十七日同省老陸宅附近の戰鬪で同樣前線の華と散つた湯本町出身（原籍山形縣南村山郡本澤村）歩兵上等兵木村林藏君の公葬は何れも二十四日午後一時から小學校で執行される

菅本市議寄附

市內一丁目市議菅本庄治氏は前線の華と散つた令息利雄君の市葬に際し香奠返しを廢止、左の如く合計四百圓寄附

△百五十圓平市社會事業助成會、出征軍人遺家族へ△各五十圓小學校基本金、平商備品購入費、平市軍事後援會、隣保館建設費△三十圓一丁目青年團△二十圓磐城訓盲院

平郵便局 集配增回

明廿一日より實施

平郵便局では市內役場及び局所在地の集配時刻と平合戸間の遞送發着時刻を左記の通り改正明二十一日より實施し郵便物の速達によつて一般公衆に多大の便益を與へることゝなつた

一、市內取集 從來市內の通常取集便は四回の處六回に

出發時刻午前六時 同八時三十分 午後〇時 午後二三十分 午後四時三十分 同八時（日曜祝祭日は半減）

小包市內取集便は二回の處三回に（休祭日は二、三號便休止）

二、市外配達（休祭日は二號便休）從來一回の集配の處二回に

三、合戸局へ遞送する郵便物は從來一回の處二回に

平義太夫豪華版

廿四日世界館で

平市義太夫師匠鶴澤六太郎師は今回三世鶴澤六兵衞を襲名、又平市素義界の元老鈴木錦祥翁は還曆を迎へたのを期し、隱退することになつたので、之れが披露の爲め平若葉會後援の下に、來る二十四日午後三時より市內世界館に於て東都斯界の大家竹本津賀太夫、豐竹嚴太夫、三味線豐澤猿藏、同猿三郎師の來援を得て義太夫大會を開催するが竹本津賀太夫は東都義太夫界の大御所、前因會長にして、先頃歌舞伎座に於て隱退披露をした人、豐竹嚴太夫は現に歌舞伎座に出演中の大家で、三味の豐澤猿藏、同猿三郎亦東都有數の大家、かゝる大家揃ひの地方出演は、到底望み難きものなるに嚴太夫は六太郎師の叔父に當り、又錦祥翁とも古き知己の故を以て、枉げて當市に出演を承諾せるもの、平地方義太夫界空前の豪華版、會費は金五十錢で、前賣券を利用されたいと

語り物

一、御祝儀賀の入船入登　一、熊谷陣屋竹本喜美太夫 三味線鶴澤六太郎改め六兵衞　一、太閤記十段目竹本夏井 三味線鶴澤瓢　一、天の網島時雨の炬燵紙屋治兵衞の段 鶴澤瓢 三味線鶴澤六兵衞　一、攝州合邦ヶ辻竹本錦祥 三味線鶴澤六兵衞　一、寺小屋 竹本津賀太夫 三味線豐澤猿三郎　一、近頃河原の立引お俊傳兵衞猿廻しの段 豐竹嚴太夫 三味線豐澤猿藏

市制記念日に

自治制發布式典

平市の自治制發布五十周年記念式典は來月一日の市制施行記念日をトし第一小學校講堂に擧行、記念式典後自治功勞者を表彰、物故功勞者の慰靈祭を執行する、市當局では目下表彰功勞者の人物詮衡を進めてゐる

公會堂寄附

（十九日）野崎喜八郎、櫻本廣司、山野邊義政、永山勇吉、鹽田榮助、金子直秋、吉田久雄、片寄小彌太、志賀與市、高柳金三郎、吉田啓助（計二九五圓）

初夏の旅先から

磐中見學團第五報

第五日目、朝六時既に太陽は東の空に昇りかけてゐるにも關はらず、また〳〵眠を續けてゐたのである。然し間もなく宿屋の番頭さんに呼び起され、仕方なしに各自の空想を打切らなければならなかつた。飛ぶ鳥を落とすと云ふ處榮華を極めたこの燦然たる奈良朝の大宮人の生活を胸に畫き喜びに滿ちてゐた夢も簡單に立ち切られて了つた。實に殘念である、それ故か昨日の疲れも殘つてゐる樣な氣がする。お互に朝の挨拶を爲し、再び出發の準備をなし、この奈良に一種の惜別を感じてやがて京都への車中の人となつたのである。心配してゐた天氣も次第に良くなつて來たが、旅行も終りに近づいた爲、何となく悲しい氣分になり勝ちである。

×

途中、伏見桃山御陵同じく東陵、乃木神社など參拜して、明治天皇、昭憲皇太后の御威德を仰ぐが如く拜したてまつつた。又乃木將軍の邸宅を拜觀したとき、自然と吾が身を反省せずにはゐられなくなつた。實に質素極まるものである。

愈よ關西旅行最後の地京都に來たのである。然しこの地に來て大なる期待を裏切つた事は、多くの人が認めるものである。然しそれが誤解である事も間もなく分るのである。この街は大阪名古屋に比べると全く問題にならぬ程劣つてゐるのである。勿論それは外形上からであるが、史蹟に富む事も奈良に勝るとも劣るまい。又人として見ても關西人にしては珍らしい稍ゆつたりとしてゐる。この點が又人々には善い感じを與へるのである。けれども何れの場所も嚴然たる如き觀念を與へないのは惜しむべきである。清水寺、知恩院等はすべて然りである。今日の見學に於ての限りである事は言ふまでもない。

けれども吾々は大に感ずる事は如何なる大都會をしても、故郷にはとつて換へられない事である。これは旅行に來て始めて感ずる事の一つであらう。然しながらこの旅行が吾々に國體行動の困難なる事と、偉大なる反省を感せしめた事は非常に喜ばしい、故にこの修學旅行は失敗とは言はれまい（十七日京都三條日昇館にて鯨岡明）

附加、只今校長先生よりの有難き御電報を受取りました、吾々一同はより以上の元氣を以て見學しておますから御安心下さい。晝間の疲勞も充分なる睡眠のため完全に回復しますから二見に於てもこれ又有難き御電報を受けましてたゞ〳〵感謝の念に堪へません

それでなくても旅行前の修身の時間の訓戒は吾々の胸にしみ〳〵と感せしめられたのに此上は最上の注意を拂つて無事歸校しようと思ひます。

（◇）　（◇）　（◇）

仙遞局海事部 出張所誘致運動

江名町長ら上京陳情

江名町では昨年四月以來仙台遞信局海事部出張所の誘致運動を續けて來たが更に此程作山町長外一名が上京主務省に促進方陳情した同出張所が現在石卷―東京間にないところから漁船の檢査其他一切の事は一々本局係官の出張を求め其間少からざる不便を來して居り若し實現すれば濱通り漁業家は大助かりである

木炭自動車を使へ

ガソリン統制に伴ひ

卅日平市で講習會

ガソリン消費規正の結果代用燃料として木炭自動車の使用獎勵に當局は大童となつてゐるが一般業者はその性能その他の智識に欠け使用に當つて不安を覺えてゐる向があるので來る三十日平市（場所未定）に講習會を開き木炭自動車の普及を期することゝなつた

講師は去る十一日から十三日迄商工省燃料局で開かれた新炭ガス發生爐研究會に出席した本田警部補（保安）齋藤技手（工場）なほ同講習會には白河町館氏が先程購入した木炭バスを借り受け、また近く本宮合同運送が購入する筈の木炭トラックも借り受け實地指導することになつてゐる

寄附。

市內鎌田青年團顧問小野新平氏の死去により同青年團妻女キチさんから同青年團に金一封を寄附

斯んなこともあり記

―小名濱商港後日物語―

（5）　赤井嶽男

承前、然るに本港は本年十一月四日第二種重要港灣に指定せられ修築費三百八十八萬圓の內より埋立地に對する工費三十二萬圓を除きたる殘額三百五十六萬圓に對し其の二分の一に相當する金百七十八萬圓は國庫より補助せらるゝことに內定し且又淺野總一郎氏より金一百萬圓地元小名濱町より金五萬圓修築費寄附申出あるを以て縣は是等を財源とせば僅一百五十萬圓の負擔にて本修築工事を完成するを得るが故に六ケ年繼續事業として昭和三年度より施行することに決せり。云々

×

問題は斯んな事に落着したのであるが、少數で敗れた反對派と雖も決して狂瀾を既倒に回らし得ざる大勢に觀念の目を瞑つて運命の支配に委せた――と云ふ樣な簡單なもので無く、實は刀折れ矢盡きる迄に最善を悉くしての當否は姑らく會はすず可なり同情すべき血みどろのファンプルであつた。這般の消息に就て小名濱現地視察直後に於ける縣會の空氣を、當時の『小名濱商港に關し說明に大努力淺野氏の寄附は確實なりと伊東知事山田氏を突返す』と題した新聞記事によつて窺つて見る

×

（六日の本縣會昨報の續き）二時五十分淺議長により再開、山田六郎君登壇保留してゐた知事に對する質問に入り小名濱商港問題をブリ返し

阿武隈、阿賀の二大河川改修並に小學校教員恩給基本金を廢してまで小名濱商港計劃を行はんとする本豫算は一時的の豫算である昭和七八年頃には百萬圓近くの歳入を如何にするか

と明年度から各年度の縣債利子その他の數字をあげ更に

淺野も百萬圓を出して引合へば完納するだらうが若し引合ないとなれば寄附を放棄するであらうその時縣は何とするかと

淺野氏が震災直後東京市に百萬圓寄附申込をなしたが更に金を出す爲めに東京市は再三交渉の結果十六ケ年賦で納めることとなつたものである斯くの如き淺野氏に對し縣は如何なる點まで信用の確信あるか又東京への百萬圓寄附に對し縣は如何なる調査をして居るか、同族會社の保證についても經濟界の影響で總工費を增額した場合の責任は契約には明記してないが此の場合は如何になるか、寄附完納せない時には使用料の免除を取消すと共に優先權を認めずとする必要があるのではないか（此項未完）

。。。。。渡部巡査本署へ

平署飯野駐在巡査渡部良夫氏は此程司法特務に轉勤

。。。。。傷害に執行猶豫

既報、同僚をツルハシで毆つて重傷を負はせた好間村隈田川炭礦坑夫某（二九）五十嵐春（三三）の兩名は十九日平區で懲役一年但し三ケ年間執行猶豫の判決を受けた

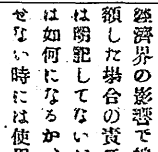
二十一日

（小名濱測候所發表）

滿潮　前七、一〇　後一〇、一五

干潮　前一、五五　後二、三五

舊四月二十二日　土曜　癸丑　先勝　成　柳宿　新五月二十一日



諸判定總裁　東京市本郷區湯島四丁目　高島易斷總本部　神宮館

一白　身の保養を第一とし動出は第二と心得べし▲二黑　平凡の如く見ゆれども根氣次第利得ある日▲三碧　思ひにふければ身をこがす位高きもおごる勿れ▲四綠　ありがたき運ぶやうに朝からたわます勵むべし▲五黃　初めはかどらされど追々と順調に進み行くべし▲六白　間違にして人を外さぬ樣なれば德望集る日▲七赤　爲すこと圖星に當る手ひかへするは却て損▲八白　無事なれども思ふ程には進展し行かざる日▲九紫　迷ひ氣一轉し此までの苦つうは一切晃れ得べし

御挨拶

私儀病氣のため去る四月以來慶應大學病院に入院、醫院を休業仕り御迷惑を相掛け申譯無之候病氣全快の上再び開業從前通り診療に從事致す可く候間御諒承下され度く候先は御詫び旁々御挨拶申上候

昭和十三年五月

慶應大學病院にて

醫學士　增田之

端午節句の飾

武者人形　御座敷幟　鯉幟　大特賣

右品御買上ゲノ御方ニ御祝トシテ已下帝都ニテ大流行ノ戰捷花ヲ差下ゲマス

敎育玩具問屋　福島縣平市一丁目（商號豆屋）　森下商店　電略（モリ）又ハ（モ）

旅舍　大幸館

東京上野驛前　下谷郵便局橫通角　電話下谷㊦六七七番

私は平市出身ですから特に郷里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります

主人　比佐棟雄